

蒸し暑い日が続いていますが、皆さん体調はいかがですか。楽しい夏休みまで、もうひとがんばりですね。今年は天体ショーの当たり年。7/15 日中の木星食、8/14 未明の金星食など観測してみても？ 天体望遠鏡がない人は、ニュースでも。編集担当：保健指導員



健康診断の結果について

校医から

4月に実施した健康診断では、372名の受診者のうち、“異常なし”は112名でした。受診するように指導を受けた学生は必ず受診して、結果を校医に知らせて下さい。講義や実習、4年生は特に就職活動の支障にならないよう、早めに受診してください。視力については、眼鏡をしていても正常値以下の学生が多く見られました。適切な視力は講義でも、実習でも必要になります。きちんと受診をおきましょう。医療者を志す皆さんは、自分の健康管理に留意しておくことも重要です。

	1年	2年	3年	編入 3年	4年	編入 4年	計
異常なし	32	29	24	1	24	2	112
ほぼ正常	11	18	26	0	24	2	81
要観察	31	30	28	2	30	1	122
要精査	19	12	13	0	11	0	55
その他	1	0	1	0	0	0	2

- ・ 小児期感染症の抗体価検査（1年生、3年編入生）：麻疹（はしか）と風疹については問題ありませんでしたが、ムンプス（おたふくかぜ）では29名、水痘（水ぼうそう）では6名の学生が（－）または（±）でした。ワクチンを接種していないと看護学実習には出られません。必ず休暇中にワクチンを接種してください。
- ・ ツベルクリン反応：ワクチン接種はありませんが、陰性だった学生については、自分は感染の危険性が高いという自覚を持って実習に臨んでください。

風疹が流行しています

西日本において風疹患者の増加が続き、厚生労働省は全国自治体に対策を呼び掛けています。今年初めから6月までに、全国で風疹と診断された人は昨年同時期の2倍に上り、5/23の感染症発生动向調査では、今年初めからの風疹患者数のほぼ90%が風疹予防接種歴「不明」または「接種なし」でした。また、患者は30歳が38%と最も多く、次いで20歳代が多くなっています（20～40歳代が全体の92%）。

風疹は「三日はしか」とも呼ばれ、感染者の飛沫（ひまつ＝咳やくしゃみ等によって飛散する体液の粒子）によって感染します。潜伏期間は2～3週間。全身の発疹や発熱、首のリンパ節が腫れるなどの症状があり、まれに急性脳炎を発症する場合がありますが、通常は3日程度で症状が消えます。重要なのは妊婦が感染して胎児に障害をもたらす「先天性風疹症候群」で、この病気になると新生児は心臓の奇形や難聴、白内障などになることもあります。

現時点で、風疹の予防策は風疹ワクチン（麻疹との二種混合＝MRワクチン）の接種のみとされています。2004年の緊急提言では、風疹の流行を排除し、持続的に先天性風疹症候群を根絶させるためには、「定期接種を受けていない小学生、中学生、高校生、大学生等」「職業上の感染リスクの高い者（医療従事者、保育施設、学校等へ勤務する者）」への予防接種が必要とされます。

特に、昭和62年10月2日から平成2年生まれの方は、定期予防接種として接種可能な期間が半年から4年未満と短く、接種機会の追加が望ましいとされています。今後も同様の流行は繰り返す可能性が高いので、ひとりひとりが自分には免疫があるのかを確認し、必要に応じて対応することが一番の予防策です。

（記事：角山裕美子）

夏休み中の怪我に注意

夏休み中は、サークルなど課外活動の機会が多く、怪我をすることもあるかもしれません。そんな時、どうしたらよいでしょうか。保健室を使用したい場合には図書学生係で申し込んで下さい。また、事故等で受診あるいは入院した時には、図書学生係、学年担任やサークル顧問に連絡をしましょう。（学生総合補償保険が適応される場合もあります。なお、学外で団体活動をする場合には事前に届け出が必要です。詳しくは学生便覧を参照）。

夏休みはつつい開放的な気分になりますが、急性アルコール中毒や性感染症などの危険も回避しなくてはいけません。怪我をして授業を休むことになっては大変です。実習には万全の体調で臨む必要があります。元気に学生生活を送るためにも怪我や病気をしないように十分気を付けて、楽しい夏休みを過ごしましょう。

健康相談日のお知らせ

健康相談日を以下の日程で設けています。夏休み 12:00～12:50に保健室に指導員が在室しています。遠慮なく訪室して下さい。

7/ 9（月）・7/23（月）・
9/10（月）

…以降も隔週で開催

